

ウイズ（共に）

くまもと障害者労働センター &
あきた共同作業所 通信

With

1995年6月号

〒862

熊本県熊本市保田窪本町5-29

TEL・FAX共通

096-382-0861

『Weeds』から『With（共に）』に変わります！！

Withの会のお知らせ

1985年、熊本市の保田窪に一粒の種が芽を出しました。

初めの頃は、限られた支援の人々が気づいただけでした。作業所が何なのか。毎日何をしているのか。地域はもちろん、自分たちにも手さぐりだった頃、もっと障害者の姿を理解してもらわなければ・・・と、叫びにも似た思いで出し始めた通信の名は『Weeds』－ひょろひょろの雑草－でした。

今年10周年を迎えた喜びを多くの皆さんと分かちあえることは感慨深いものがあります。しかし、障害者が、地域で暮らすことが当たり前のこととして、ようやく認知されてきたものの、町作りや介護体制もやっとこれから少しずつ実行される段階ですし、「障害者が働くこと」については、「当たり前」という認識さえ出来ていない状態です。

そんな中でセンターもこれからの10年を模索しなければなりません。

10周年を期に、私たちは通信の『Weeds』を『With（共に）』に変えました。これまで培ったものを力に、これからの作業所作りを地域の課題として、いっしょに取り組んでいただきたいとの願いが込められています。

どうか、これからも私たちといっしょに、悩み、喜び、楽しみながら、地域にしっかりと根づいた大木になれるように育てていってください。

◎センターは、今後も最大限の自助努力を続けると同時に、地域の人々とともに開かれた作業所づくりを進めます。

◎『With（共に）』は、その核として、センターの活動紹介だけでなくとどまらず、障害者と健常者が共に生きる時代のタウン誌を目指します。

◎センターを支援し、『With（共に）』の定期購読化を進めるため、会費制の会員組織をつくることを検討しています。（詳細は8月にお知らせしたいと思います。）

緊張しました！活動報告

—— パック連3周年記念に参加して ——

吉村 春美

5月21日に国際交流会館でパック連3周年記念がありました。それで労働センターから全員で参加しました。それで私は労働センターの活動報告をすることになっていたけど、前の日の電話では講演を聞いてから、その後だから気にしなくてもいいと聞いていたけど、次の日遅れて会場に着いたら黒田さんが「都合で活動報告が1番になりました。それで労働センターは1番です。よろしくネ」といわれた時は、その場から消えたいと思うぐらい緊張しました。おまけに原稿は用意してたけれど忘れて最悪でした。

そして活動報告の時は「いちばん落ちついた」と言われたけど、自分では何を喋っているのか全然わかっていなくて後でいろいろ気づいて、あれもいえば良かった。これもいえば良かったとか、いろいろ後悔しました。でも、活動報告をするのは大変だなあとつくづく感じました。

その後、パック連副代表の和田さんの講演がありました。内容はリサイクルは楽しもうというような話でした。午後からはパネルディスカッションがありました。だけどほとんど聞いてなくてすみません。

最後に小山さん、田中さん、パック連のみなさん、お疲れ様でした。



バック連熊本県ネットワーク 結成3周年記念リサイクルシンポジウム に参加して

バック連事務局 田中利和

まず最初に私のことを紹介しておきます。私の本業は熊本市田迎良町で、びんの問屋を営んでおります。従業員12人の小さな会社で新びん・古びんの回収や販売それにダンボール商品の販売、また最近では牛乳パックの回収やパックマーク商品の販売にまで手を広げさせて頂くようになりました。業務拡張を常に考えていかなければ大きな波に簡単に飲み込まれるような、そんな小さな会社です。

私は2年程前のバック連の小山代表の書かれた記事で「牛乳パックの向こうに、ビンが見えます」と言う文章がありました。その記事に共感しバック連に入会致しました。現在事務局の仕事をしておりますし3周年記念シンポジウムの実行委員長をさせていただきました。紹介はこれぐらいにして本題に移る事にします。

3周年記念シンポジウムは5月21日の日曜日に国際交流会館で、熊本県・熊本市・宇土市の後援を頂き、また各乳業メーカーや生協、製紙会社、各スーパー、紙問屋、・・・等などに協賛を頂き、一般の方々やマスコミ、行政、スーパー、それに学校の先生・・・等などの御参加を頂き開催致しました。内容としては、くまもと障害者労働センターの吉村さん、グリーンコープくまもと共生社の木村さん、くまもと有機の会の出田さんの活動報告、その後、全国バック連副代表の和田さんの記念講演が有り午前の部が終了致しました。午後からは「循環型社会へ向けて」・「点から面につなげるために」と言うテーマで通産省の田中さん、熊本県の村上さん、熊本市の乗富さん、大分製紙の田北さん、寿屋の宮川さん、そしてこの私がパネラーとなってパネルディスカッションを行ないました。またロビーでは書籍の販売や数々のリサイクル品の展示・販売が行なわれていました。会場の方々との意見交換なども最後に取り入れて午後3時30分ごろ終了致しました。



私の総評と致しましては、急病で全国バック連代表の平井さんが来られなかった事や、参加者が少なかったこと等々数々のマイナスの面がありましたけど、とてもバック連としても私としても行政側の方々や、メーカー、スーパーの方がとても身近に感じた一日だったのではなかったでしょうか。そのような観点からすると有意義なシンポジウムだったように思います。また、このシンポジウムを考えれば「循環型社会へ向けて」の今後のバック連の方向や私の役割なども見えてきたような気がします。

小山久子さんと東すみよさんを 励ます集いのパーティーに行って

小山久子さんと東すみよさんは今年4月の熊本市市議選で当選されました。5月26日、お二人の当選を祝い、激励する集いがもたれ、バック連の人達もかけつけられました。

5月26日金曜日の夜7時から8時半までパーティーハウスでパーティーがありました。労働センターからは野口と市瀬が代表としていきました。

最初は、市議会の人達のあいさつで、その後に乾杯でした。そして乾杯したのはカクテルでした。そしていろんな料理を食べながら、バック連の黒田さんや、下村さんたちと楽しく話をしました。そのあと小山さんと東さんと4人で写真を撮りました。

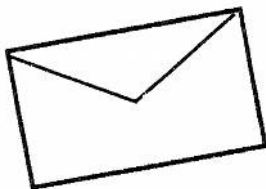
私は、花見いらいビールを飲んでいなかったので、とってもおいしかったです。

小山久子さんと東すみよさん、私たちを招待して下さいまして、ありがとうございました。これからも労働センターで頑張りますので、小山さんも、東さんも体につけて頑張って下さい。

最後になりましたけど、小山さんと東さんのパーティーにこられた方、本当にお疲れさまでした。



ドレスアップしてお祝いにかけつけました



近況報告

.....
センターの皆さんお元気ですか。私は元気です。
.....

今は電子部品製造する会社で仕事をしています。
.....

仕事内容はパソコンを使って受注係、内品などの事務関係の仕事をしています。もともとやりたかった仕事だったし、そんなに時間を気にせずにやれるので、やりやすいです。会社の人も皆自然につき合ってくれるし、何でも話が出来るので本当にいいなアという感じです。
.....

ただ仕事に対して言えば、本当にこれでいいのだろうか、他に出来る事はないのかとか、私はこのままで終わりのかなあと思いつつ、まっ、コンピューターなどの機械類はある程度マニュアル通りに動かしていれば問題は起きないよネ、と自分に言い聞かせながら毎日キーボードに向かっていきます。
.....

会社に入って3年になりますが、障害者が働くことの意味がまだわからないような気がします。
.....

自分自身がなぜ働くの？ お金は？
.....

「年金があるから困らないのに、そんなにお金欲しいの」と聞かれたら私か欲しいのは、「お金じゃなくて仲間」としか答えられないだろう。
.....

.....
山田三希子
.....

おてもやんだより

松田美知子

この3ヵ月間はテレビがとてもおもしろかった。

犠牲者の方には申し訳なかったが、もちろんそれはオウム真理教の関連のニュースだ。事実は小説より奇なりというが、小説というよりむしろ漫画の世界でしか起こらないようなことが次から次に起こったわけだから。

わからないのは、あんな宗教にどうして入信するのかということだ。

新聞などでは次のように説明してあるものが多い。終戦で何もかも無くしてしまった日本人は、経済の発展を最大の幸福追求の目的にした。統計的には世界でも一二を争う豊かな国になったそうであるから、世界でも最も幸福な国民であるはずである。ところが種々のアンケートの結果で見ると幸福であると答える人の割合は必ずしも高くなくて、むしろ、孤独で不安であると感じている人が目立つ。そのような人がどこかに所属して心の安定を得ようと考えすることは当然なことで、オウム真理教の発展もそのことと結び付けられるのではないか。だから一流といわれる大学の出身者が、ああもたやすく、あんな宗教なんかに入信するのだと。

私は若いころ、スクリーンという映画雑誌の熱心な愛読者であった。30年くらい前のSF映画に今回の事件のようなストーリーが多かったように思う。つまり、科学技術は最高に発達するのだが住民の心は満たされず、神秘的な世界に引かれて悪の宗教団体や組織がはびこるとかいうような……。

とか何とか書きながら、ふと私の現実をみつめてしまう。離婚して子どもを抱え、年金に頼り、楽とは言えない私の生活。仕事がないので、髪を振り乱してワープロに向かって文章に挑んでいるのだが、どこに投稿しても認めてもらえないという私の現実。

障害者の中には私と同じように、生活が苦しい人も多いのではなかろうか。

麻原教祖は視覚障害者である。盲学校の寄宿舎では後輩を陰湿にいじめていたそう。在学中に親の面会も非常に少なく、帰省もすくなかったそう。生活が苦しいので口べらしとして盲学校に入れられたと報道したマスコミもあったそうで、私ならずとも親の愛と彼の性格形成を関係づけて考えてしまう。

昔、私もそのような人に出会ったことがある。学校を卒業しても就職できなかったのも、身体障害者職業訓練校に入学した。そこである人から冷たくいじめられた。浅原教祖も彼のような境遇ではないかと思っていたところ、盲学校での素行が報道され、やっぱりと思った。そのようにとらえるなら今回の事件の根っこには、日本の障害者の置かれている現実が横たわっているように思うのだが、本質的なところは何も論議されず、解決もしないまま今回の事件も通りすぎていくのだろうか……。

30年を振り返って（4）

澤田 新一

澤田新一さんは7月21日に行われますハートフルムービーにおいて「私の30年を振り返って～今、青春を生きる～」という演題で講演の予定です。さて、どんな話がとびだすやら。澤田さんの迫力のある話をご期待下さい。

この施設には10年ちょっといたわけですが、最初の3年間というのは、ただボーッと過ごして、時間だけが経っていくというような毎日でした。

3年目に、その施設の近くの養護学校に、松養に勤められていた先生が転勤してこられまして、その先生との付き合いにより、私のそれまでの生活が変わりだしました。そのころ天草の高教組の数人の先生が中心になって「天草健常者と障害者が共に生きることを語る会」（天草共に生きる会）というのができました。

確か6月ごろだったと思うんですけど、その先生が「障害児を持ったお母さんが自分の子を普通学校に行かせるかどうか、とっても悩んでおられるから、ちょっと話をしてくれないか」と来られて、それがそもそものきっかけで「天草共に生きる会」に入ったわけです。どういうわけか、自分が実行委員長で、もう一人の腐れ縁の奴（久島さん）が副実行委員長にいつのまにかなっていました。

「天草共に生きる会」は2～3ヵ月に1回の例会を開いていていましたが、その活動にかかわらなければ、現在の自分はなかったように思います。障害者と健常者が共に生きるというような活動は、松養を卒業して3年間ぐらい忘れていた気持ちを思い出したような気分でした。

何といってもショックだったのは、会議があるということで先生たちと一緒に出てきて、生まれて初めてネオンのキラキラしている夜の町に飲みに行ったときでした。時計を見てみると施設では消灯の時間なのですね。ところがシャバでは自分と同年代くらいの連中が遊び回っているんですよ。これをみて、自分の毎日の生活っていったい何なんだと思いました。

それから2、3ヵ月のわりで開いていた例会の前の晩は、天草の本渡市の飲み屋に行行って飲んだりしました。施設の盆休みなんかも、家に帰らずに熊本市に出てきて、ここ（障害者労働センター）に何日間も泊まり、介助者なしで自分たちだけでタクシーなんかを利用して町にくりだしたりしてすごしました。いま考えてみると、ここで何日間かすごしたことが、自立生活のための体験みたいなもので、自分でも、これはどうにかなるんじゃないかと思いはじめたわけです。（それが間違い

のはじまり・・倉田談）

それで、どうにかなるんじゃないかと思っても、いま一步が踏み出しきらんだったのですが、一緒にいた久島さんが自分より一步先に施設を出たので、正直な話、ちょっとあせりだしました。

でも一步を踏み出しきらんだったのですが、そして、一年ちょっとしたくらいの時に新聞紙上をお騒がせしました「ノック事件」が起こったのです。施設の職員が私の部屋に入るときにノックもせず、ドアを開けて入ってくるので、「ノックして入ってくれ」と頼んだら、「施設の中ではそういうのは必要ない」と言われたのです。ムカーッとしまして、ノック事件のこと以外でも、やり方をめぐって、たまっていた事もあったもんですから、「このままにはしとかんぞ」と思って、新聞社に電話したわけです。その電話を受けた新聞記者の人とはすっかり友達みたいになり、今でも一緒に飲みに行ったりしています。取材に来られて、自分でもびっくりするような大きな記事で、それからというものチクリチクリと針のムシロに座らせられたようなものでした。こっちから話しかけても知らんふりをされたり、施設から家の方に電話されて「とんでもないことを、しでかしてくれましてね」と親に言ったり。

自分でもそのことがあって施設を出ると決心しまして、正月に帰省したとき家族に「施設を出たい」と言いました。そのとき親が一番言ったのは、「生活をどうするか」ということでした。私は「住居は障害者労働センターに住み、食事なんかは福祉生協というのがあって、そこの弁当の宅配を頼む、病院はすぐ近くにあるから、どんなにかある時はそこに行くし、普段から健康管理には心掛けています」と切り返しました。「そこまで考えとるなら、あとは好きにせい」と親父はどこかに行ってしまうました。

正月休みが終わったらまた、いっぺんは施設に戻りましたが、しばらくは黙っていました。そして施設長に「やめる」と言ったら、そのときの施設長の嬉しそうな顔。そしてやめる日にはリフトバスで迎えに来てもらい、リフトバスを正面玄関にぴったり横付けて・・・・、そのときの気持ちといったらなかったわけで・・・・。

こうして私の労働センターでの自立生活が始まりました。



.....

（質問A）施設から出ようと思った、一番のきっかけが町の

ネオンだったとは（連れていったのがまずかったかな・・倉田談）、やっぱりそうだったのかなと思ったけど、それが動機になるんですか？

（澤田）きっかけとしてはそれもあったのだけど、それまでずっと施設はイヤだと思っていたし、施設に入ってから最初の3年間は、ただ時間がすぎていくばか

りだったんだけど、町の中で暮らしたいと気持ちはずっとあったわけですが、夜の町に出たときのショックはかなりのものだった。

（質問B）私は養護学校の経験はあるのだけど、施設はない。施設は養護学校とあまり変わらないところだと思っていたけど

（澤田）施設が養護学校と同じところは食・住・介護が保証されているところ。養護学校といっても当時の松養（10年前）は、自由な雰囲気があった。ところが施設というのは職員が絶対的に力を持っていて、強制的に与えられたプログラムを消化していきだけ。自分ならこうしたいんだと言っても、受け入れられない。

（質問C）それからこっちに来てショックだったことは。

（澤田）ショックというショックはなかったなあ。まあ、せいぜい夜の10時すぎごろ町で電動車椅子のバッテリーが切れかかったことがあったけど、あれが一番頭を抱えたなあ。出てきてショックというショックはなかったですよ。

（質問D）新聞を騒がしたあと、そのあと誰が言ったかわかって、結局そこを出てきたんだけど。私が澤田さんなら出てこれなかったと思いました。

（澤田）他の施設でも、施設を出たい人は結構いるんですよ。でも介助のこと、住むこと、そういうことを考えると、したいんだけど出来ない。どこに相談すればいいのかもわからない。ただ時間だけが過ぎていくんですよ。なかにはそういう気持ちを持っていても、あきらめてしまう人もいます。あの施設の中には十何年間一度も家に帰ってないという人もいた。そういう人たちは孤立している。両親も死んでしまったり、あるいは年をとったり、兄弟がいてもそれぞれ家庭を持ったりして、その人が「帰りたい」と電話しても、「帰ってくるな」と言われる。そんな人が何人もいた。

（質問E）それが現在の澤田さんの活動のバネになっているのか

（澤田）確かにそれもあるが、そればかりではない。

（質問F）澤田さんでも最初に介護を頼むときはためらったとか、久島さんが出てきてもまだふみきれなかったとか、今の澤田さんからはちょっと信じられない気がします。そういう所を経てきたんだなあと思う。施設の中にいたけど「共に生きる会」に参加したということで外の情報を知ることができたみたいですけど、外出しない人とか、そのような会に参加してない人でも、外の情報なんかを以前より知ろうと思えば知ることができると思うんだけど、そういう情報というのはどれくらい知ってますか。たとえば緒方さんなんかは

（緒方）いえ、知らなかった。

（質問F）ただ、久島さんがいるということでここに出てきたの。

（澤田）緒方さんも、俺が夜の町に連れて行った。

（質問F）緒方さんも同じ施設

（緒方）能力開発センターの経験が一年あるし、そこから澤田さんたちの施設にいった。

（倉田）昨年、あの施設から心配されて見にこられた。やっぱりこの二人をネオン街に連れて行ったのが間違いでした。

10年目の喜びを分かち合って
今年も
夏の1日をいっしょに楽しんでくださり

びくびく夢が
わいてくる

手話ダンス

裸の大將

くまもと障害者労働センター
第3回

ハートフル ムービー

アラジン

記念講演

リサイクル
オークション

キーボード
ミニコンサート

7/21(金)

今年も

夏のハートフルムービーの日がやってきました。

年に1度のこの日のことを

お正月頃から「今年はどうしようか」と
いろいろと話して心待ちにしています。

今年はセンターの10周年記念行事として
ちょっと趣向を変えています。

でも基本は同じ。

メンバーの講演も、アトラクションも
ハートフルな雰囲気を楽しんでいただけたら、
そしてまた少し

広く、深く世界を広げられたら……。

平日で申し訳ありませんが、

どうぞ

一人でも多くの方のご参加を
お待ちしております。

猫の手求む！

チケット売り、ポスター貼り、オークションの準備、
また当日スタッフとしてご協力いただける方は
センターまでご連絡ください。

オークションに出品いただける方は
同封の申込用紙にご記入の上、センターまで
お送りください。

先生と言われて40年 (1)

一甲宣男先生講演会より

一甲先生は今年3月熊本市山ノ内小を退職されました。先生は労働センターの野口さんの恩師であり、「ダイアリー」を書いた板見陽子さんの龍田小での担任として知られています。先生の実践はとても心温まるものがあります。障害者も健常者も共に生き、共に学ぶという統合教育とは、どのようなことを目指す教育であるのか、実践をもって指し示されました。

労働センター定例のミニ講演会で6月13日に話していただきましたが、小学校の先生や子どもの進路で悩んでおられる保護者の方、ヒューマンネットワークの方などに参加していただきました。アットホームな雰囲気の中で、笑いあり涙ありの講演会は盛り上がりしました。

(1) 雨なのに・・・

私は40年間教員生活をしましたが、その中で特殊教育を13年くらいやりました。特殊教育は健軍小学校の特殊学級に3年と、熊大付属養護学校に10年いました。そこから障害を持った人との付き合いがはじまったのです。それまでのかわりは先生と生徒という関係でしかありませんでした。そのころ、子どもから学んだことは2つあります。

一つは健軍小の特殊学級を初めて受け持ったときでした。

子どもたちは、花壇に毎日水をかけてましたが、雨が降っても、傘をさしてジョロに水を入れて、花に水をかけるのです。そのとき周りの人は、「やっぱり」という言葉を使いました。「やっぱり知恵が遅れているから、雨が降っても、水をかけるんだなあ」と言っていました。その頃「やっぱり」という言葉をさかんに使っていたと思いました。何かしでかすと「ああ、やっぱり」というふうに。その「やっぱり」という言葉がはずれたのは、ずっと後のことなんです。

勉強の時には「の」や「し」の字を、鏡に写ったように反対に書くのです。「やっぱ、知恵の遅れとるけん」とか「しよんなかない」とか思っていました。

ところが、自分の子どもが「の」という字を反対に書いたんです。「俺の子どもも知恵遅れなのか」と慌てました。自分の子どものときは一生懸命になりますよね。それで先輩の話の聞いたり、本を読んだりしましたところ、なんの違うんですね。人間が普通に発達していくときに、「の」という字を反対に書く（鏡映文字という）時期があるそうです。ただ普通の子どもは、短い期間でそれが正常になるのだけれど、人によってはその期間が長くなるというのがわかりました。

ぶらっときたよ

「たんぽぽの会」

今月の「ぶらっときたよ」は予定を変更して熊本県重症心身障害児（者）を守る会、熊本市在宅部の「たんぽぽの会」です

この会は重症心身障害者をかかえる親の会です。日々の子育ての中で起こる様々な悩みを解決するための情報交換の場、ストレスを解消する場、養護学校卒業後の「生き甲斐の場」としての重症児（者）の通所施設の増設運動や、さらに会員の様々な要求を把握し、各関係者や行政・企業に働きかけておられます。（体の大きな子に合う紙オムツやオムツカバーなどは既製品にいいものがないのでその要望などを）

この団体をはじめとする様々な団体の地道な活動の成果として、昨年江津湖療育園が開園しました。

部長の岩崎智枝子さんは次のように語っておられます。「江津湖療育園が開園したことで、養護学校を卒業してそれまで在宅を余儀なくされていた重症心身障害者たちは、それぞれ、入所、通所という形で、生き活きとした生活をおくれるようになりました。しかしながら、江津湖療育園入所はすでに満床になり、通所も一年内に定員に達する見込みです。現在、喜々として養護学校生活をおくっている重症児たちが、卒業を迎えて行き場を失うことは目に見えています。これらの現状から、引き続き行政に通所型施設の増設を要望していかなくてはと心を新たにしているところです。」

.....



たんぽぽの会報「わたげ」より

「短期入所」を体験して

Sさん

江津湖療育園の開園に伴い、「短期入所」が可能になったことは、心強い限りです。私もこの三月に家族の事情により、日帰りで利用させて頂きましたので、感想を述べてみます。市役所の諸手続きを終え、当日が近づくに連れて種々の不安が強くなりました。「自己表現が不十分な娘について情報を提供すべきではないか？

準備物は？」等々……。そこで事前に担当者と話し合ったり、娘を同伴して環境に慣れるように努めました。約7時間足らずの「入所」は無事終わりましたが、

母子共に大きな経験が出来たようです。

今後、施設を利用するに当たっては、本人、家族、受入れ側の三者が、十分な情報を提供仕合い、スムーズに事が運べるように努力することが必要と考えます。

今年1月に2日間、昼間だけ子どもを初めて預けました。

江津湖療育園に短期入所して

Oさん

朝9時ごろ、主人と3人で園に行き、係の先生に色々なことを話しました。先生方も皆さんやさしそうな人ばかりで、室内も新しく安心しましたが、初めて預けるということで、親のほう心配と不安で一杯でした。子どもの方もなんとなくいつもと違った様子でいました。

夕方4時ごろ迎えに行ったら、お友達のそばでミニーマウスを抱っこして、じっとしていました。声をかけると上手をしてくれたので、少し安心しました。先生に話を聞いたら「おりこうに昼食を食べましたよ」と言われほっとしました。

家に帰ってからも元気に遊びました。夜もぐっすり眠りました。

翌日はお昼に連れて行きました。車のなかで眠ってしまい、園に着いたときも、眠っていたので、そのまま置いて夕方4時ごろ迎えに行き、「今日はずっと眠っていました」と言われました。入浴もさせてもらったそうです。二日間安心して預けることができました。職員の皆さんも親切でいい人でした。これからも機会がある時は、また預けたいと思います。

皆様もどうしてもだめな時、親が病気したときも、冠婚葬祭で忙しいときなどには、大いに利用されたいかがでしょうか。

Q. 心身障害児(者)の短期入所はどこで行うのですか？

- A. ・重症心身障害児者施設(芦北学園、江津湖療育園、再春荘、はまゆう他)
・精神薄弱者援護施設(第二大江学園、三気の里、仁愛和光学園他)
・児童福祉施設(人江、愛育学園・肥後学園他)
・医療機関(再春荘・菊地病院)

Q. まず何をしたら、いいですか？

- A. 市町村障害福祉担当課で登録の申込をしてください。
・本人の状態を把握します。
・市町村障害福祉担当課に申請書を提出してください。
・手続きに必要なもの。(手帳(身体障害者手帳または療育手帳)・印鑑・健康保険証)

Q. どんなときに、利用できますか？

- A. 疾病・冠婚葬祭・事故・災害・転居・看護・出産・学校行事などの公的行事。
それから家族の休養のためにも利用できます。

Q. 費用はどのくらいかかりますか。

- A. 個人負担金 1日、1450円

※緊急時は事後申請が可能です。



平成7年(1995年)6月6日 火曜日 熊本日日新聞

くらし

「ひとりひとりの会」でラベルにひもを通す作業をするボランティアと障害者



資金不足で苦しい運営

助成を受けても家族やボランティアが大きな負担を負っているのが現状。障害者の工賃も支給できない作業所も多い。

このため、有志に設立基金づくりなどの協力を求め、「認可」に移行するケースもある。昭和六十三年に開設された熊本市の「ライン工房」は昨年十一月、「身体障害者の通所授産施設」として社会福祉法人に認可された。これまで三百万円だった補助金に代わり約二千八百万円の措置費となり、専任職員も七人に増える。しかし長所ばかりではない。これまで健常者との触れ合いと物品販売の訓練を目的に老人ホームで行ってきた売店事業は授産科から外された。また施設の利用は身体障害者に限られた。

熊福連は二十一日、熊本市の福祉センター「希望荘」で総会を開き、無認可の小規模作業所の役割を話し合う。島田会長は「行政には作業所の位置づけを法的にはっきりしてもらいたい。補助金の増額と職員の身分保障を求めたい」と話している。

法的位置づけを

心身障害者の自立を支援 増える無認可の小規模作業所

県内

熊本市若葉一丁目の「ひとりひとりの会」（興和子代表）。「ここにちは」。一人の知的障害者（四）が元気な声でドアを開け、ボランティアと一緒に焼酎（しょうちゅう）のラベルに紐（ひも）を通す作業療法を始めた。「これまで家でゴロゴロしていた。やってみると面白い」

同会は三年前からボランティアと障害者の家庭が交流、四月に作業所を開いた。資産面などの法人化の要件を満たしていないため無認可でのスタートだ。補助金の支給対象にも

心身障害者の自立を支援する無認可の小規模作業所が増えている。熊福連（県障害者福祉作業所連絡協議会・島田幸子会長）が発足した平成三年度は加盟十一カ所だったが、現在は十三カ所に百人を超える障害者が通い、新たに設立の動きもある。しかし在宅障害者の貴重な「受け皿」となっている半面、どこも運営資金の不足に悩んでおり、作業所の中からは公的助成の増額と法的位置づけを求める声が出ている。

補助金の増額と

なっていない。通って来る障害者は十人。放課後、遊び相手がない」「少しでも作業を覚えたい」「話し相手がほしい」と理由もさまざまだ。

熊福連によると、こうした新たな無認可の作業所設立の動きは菊池郡西合志町、荒尾市などにもある。県内には「認可」の授産施設は十九施設、約五百人の障害者が通所しているが、島田会長は「無認可の作業所は授産所になじめなかったり、希望の授産所に入れない障害者の受け皿。その人に合った作業ができる自由と柔軟さがある」と話す。

しかし無認可作業所は慢性的な資金不足に悩んでいる。①地域家族会が事業主体になり②職員を一人以上配置③定員十人以上など、一定の条件を満たせば無認可のまま公的補助金の対象になるが、熊本県の場合は年間最高で百万円、国と市町村合わせても三百万円だ。東京都など一千万円を超える補助がある都道府県に比べ、熊本県はまだ低額で、光熱費や家賃など固定費をまかなうのがやっと。

シリーズ17

アルコール依存症を知る

自分を知る1

欲求と不安

人間を内側から行動に駆り立てる力を欲求と言う。もっと簡単に言うとあれをしたい、これをやりたいという気持ちである。われわれは同時にいくつかの欲求を持ちやすいが、一度に一つの欲求しか行動に移す事はできない。同時に起こるいくつかの欲求を整理して、その場に最もふさわしいものだけを行動に移す働きを意志という。朝、仕事に行くときことを考えてみよう。疲れているので休みたいと思ったり、天気もいいので釣りに行ったらどんなに気持ちがいいだろうか考えたりする。意志の力が正しく働いた場合には、仕事に行って自分の義務を果たしたいという欲求に従って、仕事に行くことをとるのである。

不安というのは自分の身の上に何か悪い事が起こるのではないかと心配する気持ちである。この時は動悸、呼吸促迫、頻尿、発汗、口渇などの自律神経症状を伴い、注意は散漫になり、眠れなくなる。

■欲求と意志の関係

意志は欲求の整理係であると言える。欲求のないところには意志の働きは必要ない。

ある欲求があまりにも強くなった場合には、意志の力が正常であってもその欲求を抑えることができなくなる。前の晩に徹夜で働いた人が、翌日の会議で居眠りをしたとする。この場合には睡眠欲求があまりにも強く、目を覚ましていることができなかったわけで、大事な時に眠っているからといって意志が弱いとは言えないと思う。意志の強さを判断する場合には、欲求の強弱を常に考慮に入れるべきである。

アルコール依存症は意志が弱くなるのではなく、飲酒欲求が極端に強くなる病気

である。それは病的飲酒欲求とか渴望とかいわれ、それに打ち克って飲まないでいることは、正常な意志の力では困難である。意志は正常であるが、欲求が病的になったのである。意志薄弱なアルコール依存症者もいると思うが、まだ見た事がない。

■欲求と感情との関係

ある欲求があつて、それが果たせないでいるときは、不安が生じたり、緊張したり、イライラしたりする。例えば、合格発表の前には不安が強い。空腹で食欲が満たされていないときは、怒りっぽくなる。断酒後間もない場合も同じである。強い飲酒欲求を我慢しながら生活しているので、何でもないときにイライラしたり、腹が立ちやすくなる。

逆に欲求が達成されたときには、感情は弛緩して、解放感や喜びが得られる。試験に合格したときや、腹いっぱい食べた後のことを考えればこのことは容易に理解できよう。

不安がもっとも生じやすいのは、ある欲求が達成される可能性とそうでない可能性が半々くらいだと判断している場合である。達成の可能性が強いと考えれば、自信や希望になるし、失敗の可能性が大きいと感じれば、絶望やあきらめを生じる。

そういう訳で、始めての事に挑戦するときには、不安は付き物である事を忘れてはならない。「断酒できるだろうか」という退院前の不安はまさにこれである。今まではうまく行かなかった断酒生活を始めるわけだから、いろいろと心配になるのが当たり前である。自信満々の人は断酒継続の難しさが正しく分かっていないのだし、帰ったらおもいきり飲んでやろうと思っている人は不安など生じるはずもない。

次号につづく

熊本シネマランド

編集協力・キネコム
(熊本に映画博物館を創ろう会)

③

「きけ、わだつみの声」

戦後50年たち、日本人の殆どが戦争の記憶を消し去ったかに見える。しかし、戦争は確かにあった。歴史上の事実としてその爪痕は今もなお残っている。忘れてはならない死者達の声。今こそしっかり受け止めよう。



緒方直人 鶴田真由 風間トオル 織田裕二

「告発」

1963年アルカトラズ刑務所は閉鎖された。権力の影に隠された、想像を絶する苛酷な仕打ち。若き弁護士と囚人は友情だけを信じてアメリカの司法制度に立ちむかう。孤独で苦しい闘いが報われるとき感動の拍手がまき起こる。

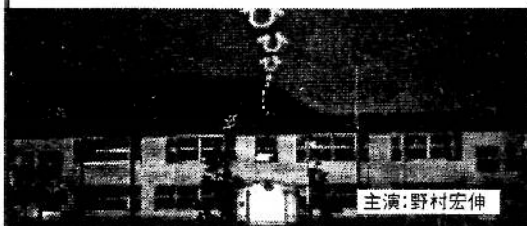
クリスチャン・スレーター



ケビン・ベーコン

「学校の怪談」

小学校の頃、テストの採点を先生に頼まれて友達と二人居残った教室。夕闇が迫る、静まりかえった空間に何とも言えない恐さを感じたものです。語り継がれるウワサ話＝怪談。子供達の冒険心をそそります。



主演：野村宏伸

「バットマンフォーエヴァー」

昔、タバコの銘柄に「バット」というのがあったナー。そんなこと皆知らないっか。でもなぜ「こうもり男」が正義の味方なんだろう？ま、いいっか。バットマンは永遠のヒーローだーッ！それに、この最新作はスゴイゾ！バットマンのヴァル・キルマーも、もちろんかっこいいけど、悪役にはトミー・リー・ジョーンズと、あの「マスク」のジム・キャリー。この二人の極悪コンビが相手じゃ孤独なヒーローにだって味方が必要！そこでロビン（クリス・オドネル）の登場。壮絶タッグマッチが始まるゾ！



ヴァル・キルマー

クリス・オドネル

「レジェンド・オブ・フォール」～果てしなき想い～

アメリカの“大西部劇時代”が終わろうとする頃、モンタナ州の大自然の中で生きた若者の哀しい愛の軌跡を描く。トリストラン（ブラッド・ピット）は、野性的な自然児。長い金髪をなびかせ馬を駆る姿が美しい。しかし、自然の中での暮らしも時代の波に押し流されてゆく。第一次大戦、そして東部から押し寄せてくる文明の波。失われてゆく古き良きオールド・ウェストを求めながら、妥協を許さない純粋さゆえ家族との絆を断ち切り、激しく愛合った人とも悲劇的な別れが…。



ジュリア・オーモンド

ブラッド・ピット



ブルース・ウィルス

「ダイ・ハード3」

犯罪都市ニューヨークもこんなに次から次へと爆弾事件が起こったんじゃないネ。現実にも、貿易センタービルや連邦政府ビルの爆破事件があったばかりでしょ。今回の相手は、「スピード」のデニス・ホッパーを上回る凶悪な知能犯ジェレミー・アイアンズ。そして世界一運の悪い奴を演じるブルース・ウィルス。彼は1500万ドルの最高出演料で、体当たりの世紀の対決を見せる。監督は、第一作を担当し、アクション映画で初のベスト1に輝いたジョン・マクティアナン。さあいやが上にも期待はふくらむネ!大スクリーンでの、マックレーン刑事の決死の活躍まってるよー。

Let's go to the Movies! 6月下旬～7月中旬

★毎月1日は、映画ファン感謝デー・劇場により、毎週金曜日のサービスデーあり

熊本東映	☎356-7393	きけ、わだつみの声 ～7/14(7/15～夜1回のみ)	ドラゴンボールZ 7/15～
東宝プラザ	☎352-0952	フォレストガンプ(トム・ハンクス)～6/30	ダイハード3 7/1～
オリオン座	☎352-0953	雲の中で散歩(キアヌ・リーブス)/死の接吻 ～6/30	
		ダイハード3 7/1～	耳をすませば 7/15～
東宝1	☎352-1718	ひめゆりの塔 ～7/7	学校の怪談 7/8～
東宝2	☎352-1718	告発 ～6/30	ロブ・ロイーロマンに生きた男 7/1
セントラル劇場	☎353-4050	バットマン・フォーエヴァー	
松竹セントラル	☎356-3100	ウインズ・オブ・ゴッド ～6/30	トイレの花子さん(豊川悦司) 7/1～
シネラックス1	☎352-3592	レジェンド・オブ・フォール	
シネラックス2	☎356-7904	アウト・ブレイク(ショーン・コネリー)～6/30	若草物語(ウィノナ・ライダー)7/1～

一期一会

たった一日だけの上映会

あいりんはなび

①「哀戀花火」

- ・「双旗鎮刀客」の何平監督作品
- ・花火の街のみじかくも美しい愛のスペクタクル!
- 6/29(木)熊本東映 ①7:00PM ②9:10PM～
- ・日中友好協会青年部

② 宮崎駿氏と近藤嘉文氏を囲んで

- ・新作「耳をすませば」キャンペーン初来熊
- ・一般参加者募集中(無料)
- ・7/5(水) 5:00PM～6:00頃
- 産文 3F 小ホール
- ・東宝プラザ内「耳をすませば」プロジェクトチーム

私の好きな映画 「マイ・ライフ」

生まれてくる子供の為に、父として自分の姿をビデオに撮影しているシーンから始まる。主人公はガンで命が限られていた。その事を知った妻とガンと闘う夫、そして生まれてくる子供を優しく見守って見てほしい映画です。

(健軍 さの ふみよし)

- 鬼の私が泣いちゃった
- ひめゆりの塔
- アウトブレイク
- えしれん病氣
- 裸の大將
- さすが小林桂樹ダナ
- 持ち込むな
- 京小町

映画肥後狂句

・投稿募集中/招待券進呈/

FAX 385-3657 キネコムまで

5月の日報から

- 8日 熊福連会議
 9日 ミニ講演会
 11日 共生社生協
 運営会議カンパ贈呈式
 21日 パック連3周年記念大会
 22日 10周年行事会議
 27日 ゴミゼロデーキャンペーン

編集後記

月日がたつのは早いもので、6月に入り梅雨の季節に入りますが、みなさんにおかれましては如何お過ごしでしょうか。

さて、労働センターも10年目を迎えて7月21日に記念行事を計画しています。内容としては映画の上映会・講演・リサイクルオークション・その他色々を用意しています。是非とも7月21日は時間を空けていて下さい。また、夏以降週一回の程度で労働センターでリサイクルショップを計画しています。ご家庭で眠っている物品がありましたら労働センターまでお持ち寄り下さい。

なお、今月号から『Weeds』から『With』に名前を変更しますが、内容的には変わりません。が、もっと充実したものを作りたいので皆さんの原稿をどんどん募集しています。

編集委員長 久島雅樹

5月のパック回収

16日 託麻西小学校	55.3Kg
尾ノ上小学校	49.5Kg
秋津小学校	53.2Kg
希望荘	21.7Kg
個人	3.5Kg
カプリ	25.9Kg
国際ソロプチミスト	13.8Kg
サンリー菊陽寿屋	239.1Kg
池田さん	5Kg
個人	1.7Kg
第二ぎんなん作業所	70.7Kg
ひかり保育園	96.6Kg
清水中学校	128.1Kg
17日 帯山小学校	38.9Kg
18日 国際ソロプチミスト	14Kg
22日 岡田コーヒー	20.2Kg
出水南小学校	68.3Kg
東町小学校	66.9Kg
個人	0.8Kg
23日 託麻原小学校	53.9Kg
池田小学校	31.5Kg
30日 小天東小学校	17.9Kg
キッチン岡田	12.0Kg
出水小学校	49.7Kg
桜木小学校	15Kg
美松遊機商会	2.9Kg
有機の会	50.8Kg
スーパーダイノブ	78.6Kg
31日 有機の会	25.1Kg

5月まとめ

くまと生協	187.9Kg
共生社	4280.0Kg

一九八〇年五月十三日第三種郵便物認可(毎月三回十・十五・二十の日発行) 発行一九九五年六月十五日(定価五〇円)
 KAPD通巻254号 発行人 熊本県身体障害者団体定期刊行物協会 熊本市国府三丁目二一八九(友村方)